

一、茨城県の労働組合の組織状態

(1) 県人口の圧倒的多数が自派農である。他県の農家は同様甚しく多量に居るのであるが、組織が

わたり居るものは今日、日農会の一〇〇名位である。特に県北地方は組合はほとんど居ないのであ

るが、党水戸支部が組合組織運動を積極的に行つたのであつた。あつた。日農会と日農会北会、牛野支部を中心として、茨城、那珂兩郡に組合支部が、徐々に小よつて居る。

(2) 労働組合運動。労働組合は県下全縣にわたつたのであるが、党支部はこの方面にキーニヤードとして

活動し、最近印刷工を中心として評議会水戸合同労働組合を結成するに至つた。人員は尚且七名にすぎないが、農林氏のみを背景として居た。我が支部に強い基礎と信望を以て、日農会に強く接近し、

と信じて居る。又土浦地方の党支部も、日農会と接近し、日農会支部が、

党上層を指導し、日農会を支持して居る。

(3) 労働組合の発展。労働組合は、政治的闘争と連帯し得ない小グループが、県下各地に、徐々に、

成長して、あること、これ以下の特徴である。その中、精強なものは、支部準備会として、支部結

成の方向に精力的に向つて居る。斯様な状態の、既に我が支部は、支部聯合会、支部聯合会、支部聯合会、

果ては、支部、我が支部は、これ等、小グループ指導する。為た、そのうち、支部、支部、支部、支部、